

10・3京都大集会へ！

全学連（斎藤郁真委員長） 書記局通信

2016年9月20日

No.407

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

9・16法大開講日デモ打ち抜く！

全国の仲間みなさん！法政大学文化連盟と全学連は法政大学の後期開講日に合わせて、「京大4学生への処分撤回！改憲・戦争阻止！」を掲げて法大デモを元気にうちぬきました！今秋決戦の火ぶたが切って落とされました！

新校舎の「富士見ゲート棟」が完成し、しばらくぶりに正門前が開放され、法大生の圧倒的注目の中、デモ出発前のアピールを行いました。

法政大学文化連盟委員長・武田雄飛丸君は、「本日のデモは、大学から政治を取り戻すためのデモです。京大反戦バリケードストライキを闘った京大4学生にかけられた無期停学処分を撤回させよう！韓国やフランスなど、全世界で学生・労働者がストライキやゼネストに立ち上がっています。『大学では闘わない』シールズ運動を乗り越えて、今こそキャンパスからストライキに立ち上がろう！」と訴えました。



さらに、斎藤郁真全学連委員長から「学生や教職員のみなさん！軍事研究や経済的徴兵制など、今まさに私たちの『日常』が戦争の道具になろうとしています。本日のデモを出発点に、ともに大学から戦争を止めるために立ち上がろう！10月3日の京大集会に結集しよう！」とアピールが寄せられました。

キャンパスのいたるところで法大生が立ち止まって聞き入り、留学生や女子学生が次々と京大4学生の処分撤回署名に応じてくれました。ある法大生が「お疲れ様です！」と声をかけ笑顔でガッツポーズをする場面もありました！弾圧職員と警視庁公安部は意気消沈です。

10・3京大集会と11月国際共同行動に向かって進撃します！



9月15日、フランス全土で7万8千人のデモ！

4学生への無期停学処分撤回！

10・3京都大集会

10月3日(月)11時50分 京大本部時計台前(クスノキ前)

12時 集会開始

12時45分 第2回署名提出行動

【主催】京都大学全学自治会同学会中央執行委員会



懲戒処分（沖大学発告示第16号）に関する不服申し立て（抜粋）

沖大学生自治会委員長 赤嶺知晃

8月3日に法経学部教授会が沖大学生自治会の赤嶺知晃委員長に「訓告」処分を下しました。この処分は、沖大で「反戦ストライキ」を訴える自治会執行部の建設と沖縄全土で巻き起こる「全基地撤去」の怒りの声に追い詰められた仲地博学長体制（＝沖大当局）による反戦スト決起、全島ゼネスト決起を潰すためのものです。何の正義性もない不当な処分であり、直ちに撤回するよう求めます。

反戦・反基地を訴える5月16日の沖大キャンパス集会と同月19日～24日におこなわれた拡声器での演説や休み時間中のクラス討論を理由とする今回の処分は、不当なものであり、どこまでも破綻しています。

一つに、16日のキャンパス集会を「学生規則第21条第1項に違反し…許可を受けていない集会」としていますが、16日は沖大当局自身が集会を潰すために全学休講にした日でした。「許可を受けていない」としていますが、全学休講の中でも集会が沖大生の参加と発言を勝ち取って成功したことに対する沖大当局の憎悪であり、言いがかりのようにしか感じません。その上で、学生が集会をする際には「専任教職員の署名捺印を受け、学生部の承認（をえる）」という学則21条1項も2015年に沖大当局が一方向的に改悪したものであり、学生の主体性を一切否定する内容からして今すぐ破棄されるべきものです。

二つに、19日～24日の学生自治会執行部選挙の期間に行われた拡声器での演説を「講義妨害」とし、休み時間中のクラス討論を「講義開始時間以降も教室内で演説行為を行い、他学生の修学を妨害した」としていますが、一体どこにそんな事実があるのでしょうか？ 学生自治会執行部選挙は、米軍属による女性殺害事件が起こる中で選挙に統一候補として立候補した赤嶺知晃君（法経4年）と盛島琢允君（法経4年）が「沖縄全島ゼネストで全基地撤去へ、反戦ストで全島ゼネストを切りひらこう」と訴えるものでした。多くの沖大生は、同世代の女性が犠牲となる中で、候補者の訴えを真剣に聞きいていました。「他学生の修学を妨害」とありますが学生が真剣に考えることや討論することを何の内容もない暴力で妨害し、破壊したのが沖大当局です。演説で使う拡声器の破壊、休み時間中にクラスで訴えを行なう候補者を「授業開始5分前は授業準備時間だ」と言って職員二人がかりで羽交い絞めにするなど、常軌を逸した暴力で学生の討論を妨害したのは沖大当局です。

三つに、今回の処分の不当性を一番明瞭に表しているのが処分理由の最後の文言の「これらの行為は、学生懲戒処分規定第3条に該当し…学生として有り得べからざる行為」というものです。学生が戦争反対、全基地撤去でキャン

パスから声を上げるのは当然のことではないでしょうか？

安倍政権が戦争政治と沖縄での新基地建設を進める中で、沖代当局が学生自治会の委員長に処分を下すというのは、安倍政権に完全に屈服し、大学の戦争動員の尖兵として純化していくものです。

安倍政権は、今秋にも憲法審査会を開いて具体的な改憲への手続きをはじめようとし、これと一体で辺野古新基地建設や高江のヘリパット建設を強行しています。しかし、安倍政権の戦争政治に全国で怒りが爆発し、沖縄では米軍属による女性殺害事件に抗議する6・19県民大会が6万5千人で打ち抜かれ、「全基地撤去」の怒りが渦巻いています。高江のヘリパット建設阻止の座り込み現場には、基地をつくらされるはずの土木技術者の労働者が参加し、全島ゼネストの情勢が再来しています。1971年に基地労働者を軸に闘われ、基地機能を止め、ベトナム戦争に爆撃機が飛べなくなった全島ゼネストの闘いが甦ろうとしています。今年の11月に東京とソウルで行われる11月国際共同行動は、バクネ政権に対してゼネストで闘う韓国・民主労総との共催で行われます。アメリカ・ドイツ・フランスなど全世界で戦争と労働改悪に反対するゼネストが闘われています。この情勢下で、韓国の労働者集会などに参加し、国際連帯とゼネストを呼びかけてきた沖大学生自治会の委員長への処分は、沖縄であり、全世界の労働者民衆の怒りに敵対するものです。

大学が改憲・戦争を許すか否かの決戦の場になる中で、昨年10月27日に京大反戦バリケードストライキを闘った京大同学会の4学生が無期停学処分を受けています。4学生に処分を下した山極寿一学長体制と同様に、沖大当局が処分を下したことは、安倍の戦争政治に大学と学生を売り渡す行為です。

今回の処分について、当然のごとくあがる抗議の声に学生支援課長・國吉をはじめ沖大当局は、ひたすら「ルールを守れ」「ルールを守らない赤嶺君が悪い」と応えています。今の沖大キャンパスで、「ルールに従え」という論理で最も凶暴に学生弾圧を行なっているのが、沖大学長・仲地博をはじめとする「オール沖縄」を支持し、左派的立場を取りながら沖大の現状を容認してきた教授たちです。「私も戦争反対です。でも、ルールに従いなさい。」とクラス討論を妨害する人文学部教授・宮城公子の在り方に最も劣悪な戦争協力者の姿が象徴的に表れています。

以上の理由により、私たちは、ここに不当な処分への不服を申し立て、直ちに撤回するよう強く要求します。

【当面する行動方針】

● “市東さんの農地死守!” 10・9三里塚全国集会

10月9日(日) 正午～ 三里塚現地・反対同盟員所有地にて

【主催】三里塚芝山連合空港反対同盟



国境をこえた団結で朝鮮侵略戦争と労働法制改悪阻止へ!

11・6全国労働者総決起集会

11月6日(日) 正午 東京・日比谷野外音楽堂

民主労総11・12労働者大会

11月12日(土) ソウル



<呼びかけ> 全国民主労働組合総連盟ソウル地域本部(民主労総ソウル地本)／国鉄千葉動力車労働組合(動労千葉)／全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部(関生支部)／全国金属機械労働組合港合同(港合同)